

令和6年度 学校教育目標

木津川市立木津第二中学校

1 めざす生徒像(不変の目的)

『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高めあう生徒 【社会の創り手となる生徒の育成】

『礼節』 礼儀と節度を守る生徒 【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】

『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒 【多様な人々と協働できる生徒の育成】

2 学校教育目標(長期経営目標)

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓く力を育み、社会の創り手となる生徒を育成する。

3 学校経営方針(中期経営目標)

(1) 読解力・思考力・探求力の基盤的学力の定着のための「個別最適化の学び」と「協働的な学び」の実践による生徒の学びに向かう力の育成。

(2) 誰もが自己有用感を感じ、他者と協働できる学校風土の構築による学びに向かう人間性の育成。

4 本年度の指導の重点(短期経営目標)

☆ 「学校に行くのが楽しい」の「あてはまる」生徒を95%にする。

☆ 「自分にはよいところがあると思う」の「あてはまる」生徒を95%にする。

☆ 「先生は、悩みの相談にのってくれている」の「あてはまる」生徒を95%にする。

【具体的方策】

(1) 学校生活の大半の時間を占める授業の、楽しく「わかった、次もがんばる」と思える工夫改善。

- ・ 評価「C」がつかないためと、「B」から「A」へと伸ばす不断の個別の支援・アドバイス。
- ・ 全教科による主体的・対話的で深い学びの手法の工夫改善と振り返り活動の充実。
- ・ 指導と評価の一体化と新学習指導要領に準拠した評価規準・基準(ルーブリック)の見直し。
- ・ 成績下位者への手立て。

(2) 自己有用感(自尊感情)を醸成し、他者を尊重する心の育成。

- ・ 授業を含むすべての教育活動において、生徒指導の三機能「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育てる」ことを意識した取組の徹底。
- ・ 授業のユニバーサルデザイン化の徹底(番組表使用の徹底)。
- ・ 生徒の「振り返り」の共有化を図ることでの他者理解の促進。
- ・ 生徒指導と特別活動が連携した生徒の主体性を育む開発的生徒指導の展開(主に成功体験を主眼として)。

(3) 生徒が「つつみこまれている」感覚が持てる組織体制の充実。

- ・ 地域の資源や人材を積極的に活用した取組の展開による地域に開かれた学校づくり。
- ・ 保護者の願いや思いに共感し、生徒に関することは何でも話ができる関係の構築。
- ・ 教職員自身が「夢が語れる」「魅力ある大人」を目指す不断の努力。
- ・ 「気づく」「伸ばす」「展望する」「挑戦する」「つながる」力の定期的な自己診断と自己研鑽。
- ・ 教職員集団の縦横を意識した連携。
- ・ 人権の尊重と同和教育で培われてきた成果と手法の継承と、障がい特性の理解と生育環境を把握した上での指導ができる特別支援教育を基盤とした学級・学年・学校経営の充実。

5 本年度の研究主題

上記指導の重点を実現するため

- ・ 「個別最適化の学び」と「協働的な学び」の指導方法と評価の確立に向けた研究と実践の確立。
- ・ 開発的生徒指導の視点を重視した今日的教育諸課題に対する実践の創意工夫。